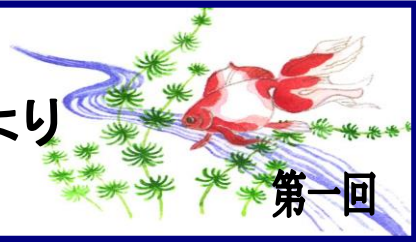


嶺雲寺

寺だより



第一回

檀家の皆様へ

住職 前川清寿

平素は檀家の皆様には、菩提寺 嶺雲寺護持に一方ならぬご協力をいただいておりますこと、深く感謝いたしております。さて、私も嶺雲寺住職を拝命し、早や本年で四十年の歳月が過ぎました。小学校六年生の時より檀家勤めをさせていただき、当時の「おじいちゃん、おばあちゃん」に可愛がっていただき、すでに三代目、四代目のお付き合いの檀家もございませう。そして、三十四年間の長きに渡り議員としてもお世話になりました。その間、檀家の皆様には一方ならぬご迷惑をおかけしてまいりました。また、住職のわがままをお許しいただいたことに深く感謝をいたしております。また近隣の寺においては無住も増えて参りましたが、嶺雲寺には何とか後継ぎができるかと安心いたしております。できるだけ皆様は親しんでいただけよう、副住職に法事等にお参りをさせていただきますが、檀家の皆様のご愛護のもと、本人も嫌がることなく務めてくれていることを嬉しく思っております。私も七十歳に手が届く年になりました。できるだけ早く副住職に住職を譲りたく思っております。種々皆様にはご協力を頂かなければならないと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

合掌

心がまえ

副住職 前川知量

住職が具会に出てから忙しさが増し、私がお参りをさせていただくことが多くなりました。なかなか慣れなかつたのですが、檀家の皆様に可愛がっていただき、今日まで務めることができました。寺院の会合や法要にも出席するようになり、色々と勉強させていただいております。檀家の皆様にはしっかりと答えていけるよう努力いたしております。未熟な私でございますが、今後とも皆様のご指導とご理解をいただきながら、一生懸命努力して参りますのでよろしくお願いいたします。

副住職 知量 拝

総代 西村環

住職より「嶺雲寺だよりをつくりたい。」とのことで、挨拶文を書くように頼まれました。何を書けばよいのかと迷いました。私達総代はできる限り菩提寺護持に努めてまいりました。それも皆様のご協力の賜物と感謝いたしております。幸いにも知量さんが後を継いでくださるようですので、より一層の護持に努めていきたいと思っております。檀家の皆様のご協力をお願いいたします。

総代 藤岡善二郎

父種次より総代を受け継ぎ、二代に渡りお寺のお世話をさせていただいております。この縁を大切にしながら、祖先をお祀りいただいている嶺雲寺を大切にすることが、私のご先祖への供養だと思っております。今後とも檀家の皆様とともに嶺雲寺護持に努めて参ります。

総代 岡本嘉久

長い間家を空け、再び古里に住むようになってから十五年、都会との価値観の異なるを感じています。「隣人」との繋がり、「村」の絆、田舎には都会にないすばらしいものがあります。また、寺の総代として色々な勉強をさせていただきました。住職も議員として貴重な経験をされたと思います。その経験を嶺雲寺に生かしていただきたい。近隣では多くの寺が再建され、寺を守らなければならぬとの強い檀家の結束を感じました。私も寺は誰のものでもない、私達の祖先のもの、いや私達檀家のものであると思っております。皆様とともに先祖に報えるよう努力をしてみたいと思っております。

総代 西井春夫

庄 玉屋地区皆様のご指名を受け、総代をさせていただき四年が過ぎました。微力ではありますが、私なりに寺の護持に努めさせていただきました。これも、皆様のご協力があったことと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

総代 中塚七郎

分家で仏壇もない私がおこがましく総代を務めさせていただいてます。父亀市が同じく分家でありながら長く総代をしておりました。また鍛冶屋の檀家の皆様のご推挙を受け、分不相応ではありますが、務めさせていただいております。仏壇を祀らなくても先祖は必ずあります。その菩提寺を守るのも私達檀家の努めだと信じております。今からの時代は、社会の変化により子どもや孫の時代には私達の墓を守ってくれる人もいなくなるのではないかと不安に感じているのは、私一人ではないと思っております。私は新しい寺のあり方について住職に進言いたしました。先般の総代会で嬉しいことに副住職が後を継ぐことを了承していただきました。私達の墓が草むらにならないうちに、また嶺雲寺も菩提寺として後世に受け継がれるように望んでいます。



寺行事のお知らせ

●八月十六日（土）

―施餓鬼法要―

八月十六日（土）、例年の施餓鬼の法要が行われます。本年も新盆の方が初盆の供養にお参りいただきます。そして、それぞれ多くの親族の皆さんに故人の供養をしていただきます。

お盆は先祖をそれぞれ家に迎え、私達家族が親しくお祀りをするともに、家族の幸せを願う日本古来の伝統です。施餓鬼におきましても各檀家のご先祖を供養するともに、戦死者の供養も合わせて行います。また無縁仏も供養いたします。

施餓鬼は寺と檀家にとつてとても大切な行事です。

●八月二十三日（土）

―地藏尊のおまつり―

数珠くりー

嶺雲寺のご本尊は地藏菩薩です。本来曹洞宗のご本尊はお釈迦様ですが、それぞれの縁起でお薬師様や観音様、大日様などが本尊様として祀られるところもあります。

嶺雲寺にはたくさんさんの石の地藏様がお祀りされています。お地藏様も観音様と同様に私達の多くに信仰対象として祀られてきました。

八月二十三、二十四日はお地藏様の日です。各地で地藏盆のお祭りが行われています。嶺雲寺も曹婦会の皆様や近くの子どもさんが集まり、長い数珠を回してお経を唱えます。またお地藏様は子ども達の守り仏とも言われています。

多くの皆様のお参りをお待ちしております。

●九月二十日（土）

―曹婦会―

秋のお彼岸にちなみ、曹婦会を九月二十日（土）に予定しております。当日はお彼岸の供養と合わせて、修証儀のお話をします。第五章 行持報恩の章から始めます。修証儀の本と解説書をご持参下さい。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

●十二月七日（日）

―達磨講―

達磨さんのお話―

「ダルマさんダルマさん ならめつこしましよ」こんな言葉があります。達磨さんは私達の生活の中に親しみを持たれています。しかし、達磨さんはインドから中国に来て壁に向かって九年間座禅をしました。これは「面壁九年」と言われています。だから達磨さんには手や足がありません。達磨禅師はお釈迦様のお弟子で二十八代目であり、禅宗の開祖でもあります。永平寺道元禅師はその教えを中国で学び、日本において現在まで受け継がれています。その達磨禅師をお祀りするのを達磨講と言われています。達磨様のご命日は十月五日であります。嶺雲寺では例年十二月第一日曜日にお勤めをしています。お寺では世話人の方々により無病息災を祈り、大根炊きをしております。

●一月一日（祝・木）

―新年祈禱会―

午前0時、除夜の鐘とともに大般若理趣分経を転読して新年を祈禱するとともに広く

大般若の功德力を仰ぎ、檀家各家の一切の災難を除き、心身快樂にして新しい年が吉慶ならんことを祈る新年のすばらしい儀式です。お勤めは午前0時に始まり、ご参拝の方々は理趣分経を頭と肩にいただきます。理趣分経はお釈迦様から伝わる秘経であり、宗門諸経の王と言われています。遠くインドより玄奘三蔵法師により中国より伝えられた經典です。

新年の厳粛な祝禱諷経には是非ともお会いいただきたく思います。

―曹婦会について―

嶺雲寺は永平寺を大本山とする曹洞宗であることは檀家の皆様もご承知の通りです。曹婦会は、最近各寺で作られてきました。嶺雲寺も五年前より作られ、修証儀の話や仏事についてお話をしております。修証儀が終われば嶺雲寺の歴史やインドの仏教、中国仏教など、色々楽しく勉強をともにしていきたいと思っております。一人でも多くのご参加をいただきたく思います。

―発行にあたり―

総代さんより寺のお祭りや宗門のこと、仏事に対することやお寺のことをもっと知りたい、寺と檀家の掛け橋となるようなことを考えて欲しいと進言を受けました。できるだけ色々なことを皆様にお伝えすることになりました。そして寺だよりを作ることにしました。皆様の意見も聞ければ幸いです。